

実証試験結果報告書の検証結果とその対応について

1. 平成 28 年度実証試験結果報告書検証結果

平成 29 年 2 月中旬～3 月上旬にかけて、実証運営機関及び運営委員会委員 2 名により、報告書作成要領（参考資料 2 参照）の要点を盛り込んだチェックリスト（参考資料 3 参照）をもとに、各技術分野の実証試験結果報告書の検証を行った。検証対象は、技術分野ごとに一技術とした。検証を行った実証試験結果報告書を表 1 に示す。

結果として、「要修正」項目に関して、各実証機関に対応を促し、対応可能な項目については実証機関が修正を行った。

表 1 検証を行った実証試験結果報告書

資料 No.	分野	技術名	実証機関
2-2	湖沼等水質浄化技術分野	超高速凝集沈殿処理 アクティブプロセス	一般社団法人 埼玉県環境検査研究協会
2-3	有機性排水処理技術分野	厨房及び食品工場排水 油水分離回収・SS 回収装置	
2-4	ヒートアイランド対策技術分野 (地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システム)	東京都練馬区の戸建住宅におけるタンク式地下水熱交換器を使用した地中熱空調システム	非営利活動法人 地中熱利用促進協会
2-5	ヒートアイランド対策技術分野 (建築物外皮による空調負荷低減等技術)	窓用日射遮蔽フィルム (内貼用)	一般財団法人 建材試験センター
2-6	自然地域トイレし尿処理技術分野	Σシステム/Σsystem (水使用-物理・化学処理-凝集沈殿)	非営利活動法人 日本トイレ研究所
2-7	中小水力発電技術分野	クロスフロー式小水力発電設備	一般社団法人 小水力開発支援協会
2-8	閉鎖性海域における水環境改善技術分野	日の丸方式 (キレートマリン等) による環境技術改善	日本ミクニヤ株式会社
2-9	テーマ自由枠 (紙おむつ関連技術)	使用済み紙おむつ脱水脱塩処理システム	一般社団法人 埼玉県環境検査研究協会
2-10	テーマ自由枠 (空調関連技術)	クリーニング乾燥機の排気熱再利用技術	

※地球温暖化対策技術分野 (照明用エネルギー低減技術) は実証数 0 件のため、対象外。

2. 抽出された課題と対応方針 (案)

検証の結果抽出された全分野共通的な課題と課題に対する対応方針 (案) を表 2 に示す。平成 29 年度事業実施要領には、報告書作成要領を別紙として盛り込む方向で検討を進めており、対応可能と考えられるものについては、報告書作成要領に反映する。

表2 報告書検証作業の中で抽出された課題と対応方針（案）

	報告書検証作業の中で抽出された課題	対応方針（案）
1 参考情報	<p>(1) 参考情報の記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 参考情報の部分に、設置条件に関する記述がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 参考情報の記載は、申請者責任の部分ではあるが、設置条件は技術を導入する際に必要な情報を考えられるため、<u>共通的に設置条件の項目を設定することとする。</u>
2 実証対象技術の概要	<p>(2) 実証対象技術の概要の記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 冒頭に技術の特長を記載すべき。 <p>(注) : 技術の原理は記載されているが、技術の特長が明記されていない（または、参考情報の部分にしか記載されていない）ものもある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実証対象技術の概要部分に<u>一般的な範囲で技術の特長を記載することとする。</u>
3 目標水準の設定	<p>(3) 目標水準の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標水準の設定根拠が不確かであると、その目標を達成した、しなかったと論じられてもユーザーには判断材料とならないのではないか。 <p>(注) : 現状、目標水準を設定している分野と、していない分野があるが、ISO14034 対応において、実証前に目標値を立てることとなり、<u>全分野共通的な課題</u>となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目標水準の設定の方法として、規制の基準等を参考にする場合や申請技術の既存データを基に設定する場合（またはその組み合わせ）等が考えられるが、設定根拠を明示すること自体に障壁はないと考えられるため、<u>目標との対比を行う場合は、目標の設定根拠も極力併せて記載することとする。</u>
4 実証試験の結果と考察	<p>(4) 実証試験結果の考察</p> <ul style="list-style-type: none"> 所見の部分が実証対象技術の定性的な記述に留まっている。 <p>(注) : 客観的に書きにくい場合もあると思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ISO14034 対応で、申請時に比較可能な技術を提示することとなり、それで対応可能と考えられる。